

平成 28 年 度

事業実績報告書

社会福祉法人 寿 楽 園

平成 28 年度

総括

～横浜市における特別養護老人ホーム建設の事業計画～

2か年にわたって準備を進めてきた横浜第一期施設整備事業である特別養護老人ホーム笹の風が予定どおり、平成 29 年 1 月 31 日に建物が竣工し、4 月 1 日に無事に開所を迎えた。

工事期間中、要望が多かった地元住民に向けた入所申込み説明会を自治会 3 か所にて実施した。また、近隣老人クラブ等にも説明会を随時開催し、地域ニーズの把握並びに顔の見える関係づくりに取り組んだ。平成 28 年 10 月より横浜現地にて準備室を開設し、本格的に現地でのサービスのご案内と求人活動を展開し、初回入居申込者約 520 名に対し、220 名分のアセスメント並びに入居判定会議・契約説明などを、計画通りに実施した。

給食サービスにおいては、首都圏セントラル厨房運用開始に向け、温度管理・調理方法の検証、メニュー開発等の準備他、川崎事業所厨房のサテライト化に向け、設計図の立案・機器の移設等の検討を行った。

～人材確保・人材育成～

横浜事業所の人材確保においては、業界自体の課題であり、苦戦が想定されたため、旧来の地道な学校訪問や縁故者の紹介、求人誌の活用と併せて、ホームページのリニューアルをはじめインターネット媒体の活用、郵便局による「かもメール」等の広報、JR 九州電车内広告など新たな求人ツールを活用し、採用活動を計画的に行った。その結果、九州で約 30 名、横浜・川崎で約 50 名の正規職員の確保ができた。

人材育成においては、設計コンセプトを開設直後から実現するため、横浜準備室・転勤予定職員との情報共有を行った。九州・川崎事業所の各種マニュアルを統合し、新任者だけでなく現任者にも研修を実施した。職員のキャリア形成および管理職候補の裾野を拡大とサービスの監督体制を強化すべく、新たに主任の役職を設け、待遇の向上を図った。

～利用者の安心・安全について～

社会問題となっている不審者侵入に対し、利用者の安心・安全を確保するため、監視カメラや入退館システム等の機械警備を横浜事業所に整備すると共に、既存事業所も追加整備を行い、セキュリティの強化を図った。さらに、基山事業所においては、ナースコールと電話交換機の更新、内装の改修工事を行い、利用者の居住環境の改善を図った。また、川崎事業所では認知症入居者の離脱防止対策の一環として、徘徊防止センサーを導入した。

～ケアマネジメントの品質向上～

ケアマネジメントの新介護情報管理システムの開発においては、“指示書”及び“実行表”をリニューアルし、現場導入を図った。新たに掲示板に速報機能を導入し、利用者の状態変化時のケアの見直し、職員へ迅速に周知徹底する仕組みを構築した。

次に、ケアプランを作成するうえで欠かせない、日々のケア実績データを管理し、誰でも一目で分かる“状態変化の見える化”を実現すべく、比較分析ツールを整備し、根拠に基づくケア決定、利用者のご家族への説明力の強化に取り組んだ。

～障害福祉サービス～

障害福祉サービスにおける地域社会のニーズに応えるべく、川崎事業所にて指定特定相談支援事業所を開始すると共に、横浜事業所においても、就労支援事業所を開設した。

福岡市、札幌市での障害福祉サービスのニーズ調査を実施したところ、福岡市においては、特に重度心身障害者の通所サービスの受入れ先が不足している状況にあった。そこで、若久事業所を障害事業に転換すべく、デイサービスセンター若久を2月に休止し、既存利用者を同サービスエリアである長住事業所への移行支援を行った。

～医療事業～

平成29年4月に開設する特別養護老人ホーム笹の風およびクリニック笹下の開設準備として、管理医師の求人活動と共に、各種関連機関との調整、諸手続き、医療機器の選定を行った。弥生が丘駅前クリニックについては、在宅サービス利用者の医療ニーズの拡大と感染対策を目的に玄関等の改修工事を行った。